

特定非営利活動法人日本アクティブキャリア開発
キャリア講座紹介

<https://www.cc.j-acd.org/index.php/life-career/342>

2022年10月1日総会後の研究会

今後の研究会

1) 中小企業におけるJOB型採用の課題

参考資料

[HRPro](#)

2) 採用への暗黙知導入の検討

参考文献

<https://www.kmsj.org/tokai/journal0710.html>

1. 採用担当者セミナー

中小企業を元気にする採用活動

人材開発担当新卒25年経験、一般採用5年経験から採用ノウハウを作成しました。

人材採用は、大変です。新聞、タウン誌、web採用登録などなど

頑張っても事業にあった人材が来ない。

どうしたらいいのだろう。悩んでしまう。

2. 実務研修活動担当者セミナー

中小企業は、代表の思いが強い。また、代表独自の経営管理になっている。

間違いではないが、指示された従業員は、大変になる。なぜなら参考資料を読み取り、理解し、試行錯誤をし、代表の思いを実現させることになるが、なかなかできないのが現実です。困ってしまう。そこで、全員参加の小集団活動とDXを活用した新たなシステムを提案します。

簡単に言えば、ホームページに情報を構築することです。

クラウド化、グループウェア、情報の一元化、フォームなどなど、必要な情報共有です。

3. 実務キャリア（小集団活動）

社員の全員参加活動（小集団活動と「DX化」）で、会社を元気にする。

1. 安全衛生
2. 品質保証
3. 業務改善（作業効率）
4. DX構築
5. 小集団活動セミナー

4. 実務概論（生産計画管理を学ぶ）

実務概論 1

生産現場は、計画管理を理解する事

実務をする時、最初に何を考えるのか

一般的には、作業に必要なデータを見つけたりたり、作成したりするでしょう

しかし、資料を見ただけで、同じことができるでしょうか
では、何が必要かです。

仕事の進め方指導します。

実務には、会社の仕事（いろいろな仕事）

手順書（最初に仕事をする前に簡単な作業順番をメモする）、その後検討し、正式
な手順書を作成する

帳票管理

いろいろな書類に番号をつける

議事録に番号をつける

人財育成（教育、勉強）

モチベーション

5. キャリア&ライフプラン

いろいろな人生あり

例えば、学校を卒業後

- ・定年まで頑張り、再雇用まで頑張った。
- ・10年或いは、20年頑張ったが、仕事に疑問を持ち辞めた。
- ・50歳頃にリストラ希望退職の指名があり、辞めた。
- ・就職後、直ぐ辞めた。
- ・不況で会社が倒産で辞めた。
- ・キャリアチェンジした。

起業・創業

- ・10年経験した仕事をベースに起業した。
- ・営業先の社長から誘われ辞めた。
- ・仲間と共同で起業した。
- ・資格を活かした仕事で創業した。
- ・2代目として転職した。

6. モチベーションアップ

やる気を起こすことこそが重要です。どのようにしていくか
お金、自由な時間とスキルアップ、やってみたい仕事・・・
無理なことばかり

- ・管理者は、今の仕事で、モチベーションを高くする仕組みを作り上げること
- ・自身のモチベーションをアップするには

私がしてきたことをこの講座では、話します。

7. コミュニケーション

ビジネスコミュニケーション

ビジネスチャンスを作るためにマナーがキーワード

- ・あいさつ

- ・報連相
- ・しぐさ：感情や意志を伝えるためのからだの動き。
- ・ジェスチャー：身振り手振りで知らせる
- ・身なりやいでたち。

1. 営業であれば、商品を説明する。何を話すか
2. 組織の中の会話
3. 上司やお客様との接し方、話し方

8. ライフプラン研究会

デジタルスクールには、6ブロック（レジメ）になっています。（会員登録者サイト）
参考に（1）を表示しています。

6ブロック（レジメ）を提供しています。（会員）

- （1）ガイダンス
- （2）CC キャリアプラン
- （3）LP ライフプラン
- （4）目標設計
- （5）資金計画
- （6）健康管理

各ブロックをみなさんと学びます。

9. キャリコンルーム CC教科書

高校生・大学生・若者・一般

自己理解・企業研究・面接の助言

オンラインセミナー（会員登録者サイト）

就職支援講座7日間コース

若者成長塾

ビジネススクール ⇒ キャリアプラン作成相談 ⇒ 履歴書の書き方から面接

10. 事業支援サイト

- ・DXに関する小集団活動1
- ・国民のための情報セキュリティ
- ・経産省 街づくりの取り組み

11. 地域で活躍、シニア・若者・学生ができる事

受入先への条件は、住むところ（サテライトオフィス兼住居）、生活費補助の用意
地方創成（地域で生きる）

講演・セミナー参考資料 PDF

1 2. シティズンシップ講座に使用しています。

地域で生きる活躍事例リンク

淡路島サイト

1 3. 大学院生就活支援

社会人博士課程経験した CC がサポートします。

14. 大学と地域シニア技術者による企業技術者向け AI・IOT 高度人材育成
機器開発請け負います。

<https://www.cc.j-acd.org/index.php/life-career/iot>

現在の組込み試作サンプルは、スケッチソフトウェアによるモーター制御、パイソン
ソフトウェアによるベルトコンベア制御

リカレントプロジェクト

技術者の資質は、専門性、コミュニケーション力、探求心、自己研鑽などが必要で
す。これらを身につけるには、昔ながらの小集団活動ではないでしょうか
何故なら、テーマ・提案を作り、調べ、議論し、課題や問題を解決し、達成する力を
身につけることです。

AI・IOT 高度人材育成プログラム

社員教育若手技術者や大学実験演習機器に最適

ものづくり IOT を進める為に、専門性・企画力・コミュニケーション・提案力が必要
です。今あるものから新たなものを探し出す。そして、品質の良いものを提供す
ることです。

利用機器



15. 学生向け講座

1) ITとモノづくり

■目的 情報通信技術と社会・生活との関わりを理解し、モノづくりで考慮すべき事を学ぶ。

■項目計画

1 歴史から学ぶ：ハードウェアの時代 コンピュータの誕生からメインフレームまでの歴史を振り返る。なお、冒頭で前半の講義内容や講義の進め方などについて説明する。

2 歴史から学ぶ：ソフトウェアの時代 ダウンサイジングや仮想化について学ぶ。イノベーションについても触れる。

3 歴史から学ぶ：データの時代 情報と通信の融合から生まれたデジタルトランスフォーメーション(DX)について学ぶ。

4 モノづくり：どこまで考えるかを考える モノづくりにおけるスコープ(Scope)について学ぶ。ユニバーサルデザインについても触れる。

5 モノづくり：損得を考える モノづくりにおけるコスト(Cost)について事例をもとに学ぶ。損益分岐点の概念にも触れる。

6 モノづくり：善悪を考える モノづくりにおける技術者倫理(Ethics)について、2つの考え方を学ぶ。

7 モノづくり：固定観念を捨てて考える モノづくりにおける創造的思考のためのアイデア発想法や事例について学ぶ。

8 後半オリエンテーション チーム分けを行い、後半の講義内容、レポート課題、成績評価方法について解説し、デザイン思考について概説する。

9 イノベーションとデザイン思考 イノベーションとは何かを理解し、デザインの重要性について理解する。

10 技術者のためのマーケティング 技術者のリテラシーとして身に付けておくべきマーケティングの知識を学び、モノづくりで活かせるようにする。

11 社会・生活を支える情報通信技術 最近のテクノロジーとその適用事例を紹介し、今後情報・通信技術が私たちの社会、生活にどのような関わりを持って くるか考える。

12 社会インフラインノベーション 地球規模で、これまで経験したことのない複雑な課題が存在する事を理解し、その解決に向け、情報通信技術が果たしうる可能性について理解す

2) ITと職業

■目的 情報社会では、最近、AI・IOTを組み込んだ機器、ICTを活用したシステムが普及している。例えば、ホームページもクラウド型やCMS（コンテンツマネジメントシステム）などで、企業情報や集客サービスなどをインターネット上から編集できる。情報・インターネットに携わる人は、情報セキュリティ知識や情報倫理を持つことが必須である。

■項目計画

1 情報社会と情報システム（教科書1章） 社会基盤として、パーソナルコンピュータ（PC）やネットワークが、世の中に普及すると いろいろな情報システムが考えられてきた。ビジネスに情報化が浸透している現在とそれ以前のビジネスとどう変わったのか、またそれがどのような影響を及ぼしているか例を通して学ぶ。

2 情報化によるビジネス環境の変化（教科書2章） 情報化によってビジネスがどのように変わったのかを学習する。パーソナルコンピュータとインターネットを活用した企業内の情報共有化が普及して行ったことが、業務効率化が進んでいった。

3 企業における情報活用（教科書3章） 情報社会における企業において情報がどのように活用されているかを学習する。ネットワークによりデータベースの蓄積化と共有化が、様々なビジネスに浸透することで、個人情報・製品や部品情報・売上利益情報などの活用し、市場分析を素早く把握し、提案と実践ができるようになった。

4 インターネットビジネス（教科書4章） 企業では、インターネットを利用した商品営業のPR活動やWEBからの受注・発注などが普及してきた。また、企業や個人が、ネットショッピングやネットオークションなどが行われるようになった。普及には、WEB開発や現金の回収方法および商品購入するための専用サイトなどの情報セキュリティ方法が確立してきた。

5 働く環境と労働観の変化（教科書5章） 情報社会になり、働く環境が大きく変わり、労働観も変化しつつあり、企業のアイデンティティ、個人のアイデンティティの急速な変化をしつつあることを学ぶ。多くの企業では、働き方の変革など、いろいろな方法を模索している。たとえば、アルバイト、派遣社員、個人事業主、契約社員、正社員と働き方法がある。また、自宅勤務、フレックスタイム勤務、成功報酬型勤務がある。個々人が選べる勤務形態を紹介する。

6 情報社会における犯罪と法制度（教科書6章） 情報社会が進むに伴って情報操作による犯罪が増えている。犯罪が起きた場合にどのような法律でどのような罰則を受けるのかを学ぶ。また、最近のネットニュースや新聞やテレビ報道から、なぜ問題なのかを理解する。

7 情報社会におけるリスクマネジメント（教科書7章） 情報社会ではさまざまな情報に

関連するリスクが存在し、事前・事中・事後の対策が必要であることを学ぶ。いろいろな個人情報や企業の機密情報など、データベースを安全に利用するためにどのようにするかに対応を学ぶ。

8 明日の情報社会（教科書8章） 情報社会は今後どのような発展をとげるのであろうか。社会の様々な場面での情報化により、私たちの生活様式が変わり、新しい価値観や行動様式が生まれつつある事を学習する。

9 事例研究1 1) レポートの書き方の説明 2) AI やIOT の普及における今後の情報ビジネスについて、コンピュータのAI化、IOT が家電や、いろいろなものに組み込まれ、いろいろな用途に使われるようになる。人工知能（AI）やロボットの開発により職業は、どのように変化していくのか個人ワークしてレポート作成する。

10 事例研究2 1) ネットショッピングやネットオークションを行うために、どのような方法や手続があるのかを個人ワークせよ。

11 事例研究3 2) 企業内のネットワーク環境や情報化の進展が速く、ネット犯罪など、法制度が遅れてハイテク犯罪が多発している。また、個人への犯罪行為をする目的の電子メールによる詐欺行為などを個人ワークせよ。

12 事例研究4 3) 情報社会がグローバル化し、国を超えての犯罪が起きるようになっている。情報社会の進歩に伴って国の中枢機関のセキュリティを厳重にする必要がある。個人ワークせよ。

13 事例研究5 4) 情報セキュリティ問題を学び、社会に出て役に立つ能力を養う。情報セキュリティについて、個人ワークせよ。 5) 個人情報保護について学び、社会に出て役に立つ能力を養う。個人情報保護について、各人が事前に調べ、まとめを文章化し、これを授業で、披露し、他の意見を聞き、自分の考えをまとめる。

3) 工学概論

■目的 現代社会における工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を習得および、現在工業が抱える諸問題を認識（探求力）し、それらを解決し社会の発展を図ろうとする（思考力）態度を身につける。

■項目計画

1 工業技術の歴史的発達と社会

「技術の進歩によって社会がどう変化したか」

2 工業技術教育 2

「機械系分野の基礎（機械設計、機械工作）」

3 工業技術教育 3

「機械系分野の応用（電子機械、原動機）」

4 工業技術教育 4

「電気系分野の基礎（電気基礎、電子回路）」

5 工業技術教育 1

「共通基礎科目（工業技術基礎、工業数理ほか）」

6 工業技術教育 5

「電気系分野の応用（電気機器、電気応用ほか）」

7 工業技術教育 6

「電子系分野の応用（情報通信、電子応用ほか）」

8 工業技術教育 7

「建設系分野（建築構造、建築施工、測量、土木施工ほか）」

9 キャリア形成について

現代社会における基本的な職業人としての基礎知識（仕事の仕組み、キャリア形成教育）

10 工業技術教育 8

「化学系分野（工業化学、化学工業ほか）」

11 工業技術教育 9

「デザイン系分野（繊維・染色技術、インテリアデザインほか）」

12 工業技術教育 10

工業社会における職業と情報（情報システム、情報セキュリティ・個人情報ほか）

4) 企業研究

企業研究の目的

1. 志望動機をより明確する。
エントリーシートや履歴書に書く自己PR、面接時に適切な答えを出せる。
2. 自分の興味、能力、適性に合っているか確認する。
自分と企業がマッチングし、長く勤められるか
3. 同業他社を比較する。
4. 取り扱う販売商品、製造商品、サービス
5. 業界シェア

1 会社組織とその分類

・業界（印刷・出版業界、放送・メディア業界、エンターテインメント業界、新聞業界、ソフトウェア業界なのかな）

・会社の規模 大手、中堅・中小、ベンチャー、個人事業

・組織 営業 管理 技術 製造

2 IT・メディア業界のこれまでとこれから

・過去の歴史と今

3 企業情報をインターネットや会社四季報などで調査

・企業の将来性、ビジョン

4 キャリア形成

・自己理解、職業理解

・自分の興味

・スキル

・長所・短所からアピールポイントを見つける。

5 リストアップした企業について調査

・興味、能力を持っている業界の職業調査・研究

・キャリアプラン作成

6 キャリアプラン作成に向けた資料作り

・ジョブカード作成方法と作成

7 過去の情報メディア学科卒業生の就職先について調査

8 自分自身の視点から調査・分析

9 IT・メディア業界の最新技術に関する調査とその技術の関連企業のリストアップ

・知っている IT

・メディア企業名と組織特性

10 調査したキーワードを元に、技術力はあるがあまり知られていない企業をリストアップ

・業界内における当該企業の位置づけ ・コア（中心となる）技術および国内外における競争力

・インターネットを利用した企業の探し方

11 調査結果に関するプレゼンテーションとディスカッション

12 企業で働くキャリアとしてどのような専門スキルが必要か

13 社会人としての基本的な知識とコミュニケーション能力がなぜ必要か

14 調査結果に関するディスカッション ・エントリーシートと会社説明会

・まとめ